これから、NIKIの発表を始めます。礼

私たちはSDGｓ１１「住み続けられるまちづくりを」の目標のもと、「ごみを拾おう！！」のテーマを掲げて活動してきました。

私たちチームは何気なく過ごしている日常に目を向け、学校や佐久地域は今どうなっているかを話し合いました。

最初に学校について調べてみました。毎日全校で清掃をしているので、汚いというのはありませんでしたが、気になったところがありました。それは、空き缶、ペットボトル等の分別ができていなかったことです。乱雑に置かれ、今にもあふれだしそうなゴミがたくさんなりました。それでは、ＳＤＧｓ１１の目標である、「住み続けられるまちづくりを」に反していると思い、改善するためにはどうしたらよいかとチームで話し合ったところ、ポスター掲示することにしました。ポスターを貼ることにより、一人が頑張って片づけるのではなく、一人一人がごみの分別を意識することを目的としてポスターを作りました。

次に佐久地域に目を向けて話し合ってみました。

佐久地域のごみ問題について調べてみました。こちらをご覧ください。

これは、佐久市の平成２６年度から平成３０年度のごみ排出量です。このグラフを見ての通り、佐久市の人口が平成２６年度から３０年度にかけて８５７人減ったのに合わせて、ごみの総排出量は4.5％減っています。

一人一日排出量は６６４ｇで、これは、平成２９年度の全国の平均値を２２５ｇ、長野県の平均値１５２ｇ少なく、ごみの減少化が進んでいるという結果になりました。

次に佐久市の１日当たりのごみ総排出量を計算してみました。

平成２６年度は総排出量が25,212t　人口は100,085人　１日あたりのごみ排出量は91,94(g/人・日)

平成３０年度は総排出量が24,074t　人口は 99,228人　１日当たりのごみ排出量は88,553(g/人・日)

この結果から５年間にわたり総排出量、人口、１日当たりの総排出量が減少していることが言えます。

次にリサイクル率について調べてみました。こちらをご覧ください。

こちらも先ほどと同じく佐久市の過去５年間の総資源化量は、年々低下しており、リサイクル率も過去５年間で、３．３ポイント減少して１７．８％という結果になりました。これは、必ずしも、市民のリサイクル意識が低下したのではなく、市の収集以外で、民間事業者による回収ボックスやスーパー等の店頭回収、学校等の資源物回収などでも 資源物が回収されていることが影響しているとことが分かりました。

次に、実際にごみ拾いをしたときに地域の方から聞いた話をします。

建物のような厳重なごみステーションがあるというわけではなく、道端にまとまってごみを捨てています。その為、可燃ごみ収集の日毎回カラスが現れ、ごみを食い散らかして飛び去って行くのを聞きました。

実際カラスが漁った後の光景を目にしましたが、臭いはきつく、生ごみが散乱し近寄りがたい空気を出していました。しかし、いつもきれいを保つにはその散乱したのを片付ける人がいます。それは、いつもそこへごみを出している一人の男性です。その男性は、朝はやくから見回りをして、カラスが来るのを阻止していました。ですがそれだと男性が大変になるだけです。カラスがきてごみを荒らさないようにするには一人一人の工夫が大事だということを改めて思いました。

「住み続けられるまちづくりを」に近づけるために３つのことを意識することが大事です。

1. 生ごみをできるだけ減らす
2. ごみを捨てる時は、新聞紙や紙袋なので隠す
3. 指定された時間にごみを出す

一人一人が行動することによって改善はされると思うので、意識的に行い、また呼びかけをしていくことができたら良いと思いました。

「住み続けられるまちづくりを」の目標を達成するためにごみの分別をし、ポイ捨てをしない、また、呼びかける、問題があれば、改善点を見つけ実行に起こすというのを大事にして、いつまでも住み続けられるまちづくりに貢献していきたいです。

これで、ＮＩＫＩの発表を終わります。　礼